



グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです!

File No.10



犬飼萌乃さん (24歳)
市川中学校・高校 (千葉・私立) 卒業

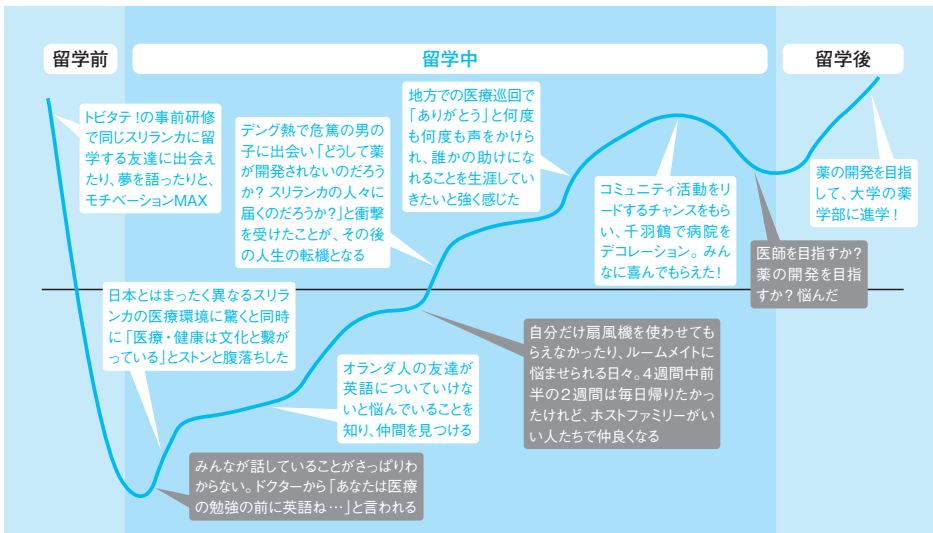
トビタテ!の高校生プログラムの第1期生。留学経験で進路が明確になり、大阪大学薬学部に進学。大学時代は学会の学生支部やNPO活動にも積極的に参加。2023年に製薬会社に入社し、希少疾患のための薬の開発に携わっている。

留学での体験が、その後の人生の軸となる原体験に!

子どもの頃から漠然と医療や途上国支援、ものづくりに興味がありました。高校1年生のときに学校で見たトビタテ!の募集のチラシに「国際ボランティアコース」とあり、そこそが自分のやりたいことだと応募を決意。志望理由書作成にあたり、校長先生たちが直接サポートして、自分の将来を共に考えてくださり、とてもありがたかったです。

でも、いざスリランカでの留学が始まると、現地の人や他国からの留学生たちが話す英語がまったくわからず、愕然とする日々。仲間の助言もあり、間違ってもいいから拙い単語で話してみると意外と伝わり、そこから気が楽になりました。病院を回る実習では、デング熱で危篤状態の少年に会ったり、農村の高齢者の方々から感謝されたりといった体験を通じて、自分の目標が明確になりました。

薬学部に進学してからも進路に迷うことがありましたが、留学体験を思い起こすことで、自分のやりたいことの原点に立ち戻れました。人生の軸となる、貴重な体験でした。



DATA

- 【留学した年齢】** 17歳
- 【留学した国】** スリランカ
- 【留学期間】** 2年生の7月から4週間
- 【留学内容】** 国際ボランティア
- 【留学しようとおもったキッカケ】** 学校に「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」のチラシが配布され、学校全体で応援してくれたから。

*「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」(以下、文中では「トビタテ!」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。



ルームメイトたちは自己主張が強く戸惑ったことも。でも「Moenoは英語が話せないのではなくシャイなだけよ」ときっぱり言われ奮い立つきっかけに。

メディカルキャンプで農村部の人々の健康診断をお手伝い。人生初の血圧測定。



「コミュニティ活動をMoenoがリードしてみて」と言われ、千羽鶴で病院をデコレーション。殺風景な産婦人科が華やかに! 自分の存在意義を感じられた。

友達や病院のスタッフも折り紙を楽しんでくれて、日本文化を誇らしく感じた。



仲間の誕生日に、それぞれが話せる言語で寄せ書きをしたとき、みんなは2~3か国語は当たり前で、自分はスタートラインにも立っていないのだと愕然とする。



スリランカ料理は刻んだりつぶしたりが多い!

